11月1日(火)　２年障害者理解

人権教育として、２年生では「障害者理解」として、ブラインドサッカー選手をお招きしました。目にハンディキャップをもった方の大変さを学ぶとともに、前向きな姿勢に勇気と希望をもらいました。

11月2日(水)　緊急地震速報訓練

学校や企業、団体による全国規模の緊急地震速報訓練が行われました。大地震はいつ起こるかわかりません。まずは自分の身は自分で守る行動をとり、万一の時に備えることができました。

11月7日(月)　１年歯科指導

11月8日（「いい歯」の日）にちなんで、歯科医師、歯科衛生士の方に歯科指導を行っていただきました。歯の構造や、虫歯・歯周病、磨き方について学びました。

11月14日(月)～16日(水)　第４回定期考査

今回は、9教科の試験でした。3年生にとっては、受験に向けた最後の定期考査。いつも以上に緊張感をもち、真剣に試験に臨む姿勢がみられました。1,2年生も、しっかりと試験に取り組んでいました。

11月17日(木)、18日(金)　１年人権教室

各クラスにて、人権を知るとともに、人との違いや、自他を大切にすることを学びました。お互いが快適になるように、見方や言い方を変えてみることを教えていただきました。ぜひ実践していきましょう。

11月21日(月)　生徒会朝礼

生徒会朝礼が行われました。11月から、基本は標準服登校に切り替わり、落ち着いた雰囲気の中で、各委員会の報告が行われました。聴く側も集中し、しっかりと生徒会・委員長の報告を聞いていました。

11月25日(金)　１年高齢者体験

高齢者は、加齢による生活の不自由さを感じている方が少なくありません。車イス体験や、弱視や難聴の体験を行い、世の中には、高齢者にとって障壁が多くあることを体感しました。

11月25日(金)　スピーキングテスト前日指導

11/27(日)に、東京都の中学３年生を象に、スピーキングテストが行われるため、３年生に前日指導を行いました。都立高校の入試にも関わるので、みんな真剣に聞いていました。

五中生の活躍

＜ハンドボール部（女子）＞
令和４年度東京都中学校ハンドボール新人大会
ベスト８　武蔵村山市立第五中学校

＜書道＞
第50回全国学生比叡山競書大会
大会特別賞　中島　里袈（２－３）

税についての作文・税の標語

例年、全国納税貯蓄組合連合会及び国税庁が主催する「税についての作文」並びに間税会が主催する「税の標語」に本校も応募しています。作文は、３年生２名の作品が「東京納税貯蓄組合連合会会長賞」に選ばれ、評語は、１年生１名の作品が「東京国税局間税会連合会　入選」となりました。おめでとうございます。ここに３名の作品を紹介したいと思います。

＜標語＞　**１年６組　渡部　匠大**

国を支える一つの活動　もっと分かろう　税の役割

＜作文＞

「税金とわたしたちの生活」　３年１組　鈴木　晴香

わたしたちは、税金に支えられて生活できている。例えば、毎日使っている教科書も、税金によって無償で支給されている。また、医療費を払ったときに、医療費控除を受けることができる。このように生活をする中で、色々な場面で税金に助けられているが、その反面わたしたち中学生も「ある税金」を頻繁に払っている。

「ある税金」とは、「消費税」のことだ。「消費税」とは、商品の販売やサービスの提供などの取引に対して課税される税のことだ。日本は、２０１９年に「消費税」を１０％に増税した。わたしは、なぜ増税したのか、また使い道は何なのか調べた。

調べた結果、以下のことが分かった。まず増税した理由だ。増税した理由は、速いスピードで高齢化が進んでいるため、それに伴い社会保障の費用が増え続け、税金や借金に頼る分が増えてくるということ。そして、現在の社会保障制度を次世代に引き継ぐために、安定的な財源の確保が必要だということが分かった。以前は、増税に否定的な考えをもっていたが、未来のために貯えていることを知り、考えが変わった。

次に、税金の使い道についてだ。国の歳出内訳を見ると、社会保障関係費が大きな割合をしめている。また、歳出の割合の推移を見ると、１９６５年から２０２２年の間で、国債費は約２倍に増えていた。東京都の歳出の内訳を見ると、「福祉と保健」や「教育と文化」などに多くの税金が使われていることが分かった。国の歳出の内訳と東京都の歳出内訳の内容を比較してみると、どちらもわたしたちの健康を守ることや生活の質の向上につながっていることが分かった。

このように、増税することで税制全体のバランスをとることができたり、高齢化社会の財源を確保できたりする一方で、増税すれば当たり前だが物の値段が上がる。物の値段が上がることで、買い物をするときに買いたいけど「高いから・・・」とためらうことが増えると思う。だから私は、まだ税について課題点があると考える。

私は、今回税について考えたり、調べたりしてみて、普段は触れない内容だったので初めて知ることばかりで率直に楽しかった。また、前文に書いたように増税することで、税制全体のバランスをとることができたり、高齢社会の財源を確保できる一方で、問題点があると思う。そして、この作文を通して「税金」というものは、生活する上でとても大切なもので、なくてはならないものだと感じた。

五中生の活躍

（「税についての作文」の続き）

＜作文＞

「そばにある当たり前」　３年５組　片貝　望来

私は吹奏楽部に所属している。また、部長を務めている。

「ありがとうございました！」練習した時、ホールを借りた時、外部講師の方々のレッスンを受けた時、楽器を積んだトラックを運転してくれた時、コンクールを行う時など、私たち部員は必ず挨拶をする。私は部長となり、以前よりも感謝する場面が増え、回数を重ねる度にそのありがたみに気づいてきた。そこで、私がそう感じることができたのは、税が私たちを支えてくれているということに気付いたからだ。

そもそも私が吹奏楽という部活動を行える環境をつくっているのは学校だ。そんな学校も税金によって建てられた。部活動で使う楽器や楽譜などさまざまな物も、税金からまかなわれている。また、コンクールなどの本番を想定した練習をするために使っている武蔵村山市民会館などのホールも税金によって造られた。楽器を積むためのトラックがあるのも、トラックが通れる整備された道路があるのも税金があるからだ。私たちが当たり前のように練習したり、本番を迎えたりすることができるのは、税なしでは決してできないことだ。

しかし、税がなくなってしまったら、部活動としての練習やコンクールなどの本番、ホールの利用ができなくなるのはもちろん、私たちが生活しやすい環境がなくなってしまう。

そうならないためにしなければいけないこと、そう、納税だ。しかし、私たちができる納税は消費税しか思いつかない。そこでインターネットを使い、私のような中学生はどうすれば税を納めることができるのか調べてみた。しかし、出てくることはなく、改めて納税について考えた。そこで私はあることに気づいた。消費税も立派な納税だということに。確かに働いている大人に比べれば、納税している額が違う。しかし、税を多く納めることが社会への貢献になるのではない。税の理解を深め、無駄にしない使い方をするのも社会への貢献になると、私は思う。

私は今まで、税について全くと言っていいほど知らなかった。そもそも知ろうとしていなかった。税と私は無関係、そんな風にも思っていた。しかし、私は「税についての作文」を書くにあたって、少しずつしらべていくうちに税のありがたみに気づき、私たちの生活は税によって支えられているんだなと改めて実感した。

なくてはならない存在、そんな税を私は心から感謝している。

１２月の行事予定

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	木	SC　③④カット　部活動再登校15:30 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	15	木	SC　避難訓練　3年⑤⑥カット 2年⑥校外学習事前指導
2	金	③⑥カット　部活動再登校15:30 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	16	金	2年校外学習（川越）
3	土		17	土	
4	日		18	日	
5	月	②④カット　3年受験写真撮影　部活動再登校15:30 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	19	月	1,2年⑥カット 1,2年スキー保護者会
6	火	SC　④⑥カット　部活動再登校15:30 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	20	火	SC　中央委員会
7	水	①カット 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	21	水	④カット　研修会議 ⑤研究授業（１年１組）
8	木	SC　①②カット　部活動再登校15:30 3年進路面談・面接練習　1,2年三者面談	22	木	SC　⑤⑥カット 大掃除　給食終
9	金	専門委員会	23	金	終業式　安全指導　部活動再登校15:00 職員打ち合わせ　研修会議
10	土		24	土	
11	日	むさむらEKIDEN 2022	25	日	
12	月	生徒会朝礼	26	月	冬季休業始
			27	火	
13	火	SC　避難訓練　3年⑤⑥カット 2年市学力調査（国・数・調査）	28	水	
			29	木	
14	水	職員会議	30	金	
			31	土	